藤谷　謹至
議員
（拓政会）

問　忠類道の駅周辺の維持管理・インフラ整備等について
答　関係機関の意見を聞き、観光客誘因策等を検討していく

問　帯広・広尾自動車道更別インターが平成25年３月開通し忠類インター（仮称）供用開始が平成26年度末と聞いている。それと同時に忠類インターを通過し町道北４線道路、大樹町と幕別町の境までの開通も決定しており忠類インターがただの通過点になってしまう事が懸念されている。忠類インター開通を目前とした今、幕別町の南玄関として忠類地域の観光振興をさらに進め幕別の発展に寄与するために迅速な対応が求められる。そこで以下の点について伺う。

(1)インター線道路周辺の整備・案内看板の設置、道の駅周辺の駐車場の改修について伺う。

(2)観光による移住促進、定住を結びつけるための対策について伺う。

(3)ナウマン公園キャンプ場は国道から近く無料である事からたいへん好評である。ゴミは持ち帰る事が原則だが、ゴミの投棄が多いと聞いている、その対応と今後のキャンプ場の管理方法について伺う。

町長　**(1)**道内の道の駅やにぎわいのある観光施設などを視察し、研究やその対策について検討を行ってきている。また、本年６月、忠類総合支所に横断的な庁内検討組織を立ち上げたが、来年度以降の実施事業について、今後、幕別町商工会忠類支部やＪＡ忠類など関係機関を含めて意見を聞く場を設けていきたい。

　案内看板の設置については、高規格幹線道路敷地内の案内標識は、帯広開発建設部と協議を進めており、そのほかの案内看板については、通行車両の目にとまり、中心街へ誘導することができる設置箇所を検討をしているところである。

　駐車場の改修については、駐車する場所が遠く利用しにくいことや、車のスピードが出やすい区画となっているため、歩行者が危険な状況であることから、区画線の変更について広尾道路事業所と協議しているところである。

(2)観光による移住促進については、白銀台スキー場の宿泊ロッジを利用した、おためし暮らしを実施しており、昨年度は、３件６人の利用があった。平成24年度から、住宅を建設もしくは中古住宅を購入する方に対し、一定の補助を行う「定住促進住宅建設費補助事業」を実施しているが、忠類地域では、平成24年度が２件、平成25年度は現時点で７件の申し込みがあり、町外からの転入は２件３人となる見込みである。

　また、同じく平成24年度から、民間の賃貸住宅の建設に一定の補助を行う「忠類地域民間賃貸住宅建設促進事業」を実施しているが、昨年度に町内の事業者が「あおぞら団地」の２区画を購入し、３ＬＤＫの賃貸住宅５棟５戸を建設したところであり、町外から２世帯の５人の方が入居している。

(3)ナウマン公園キャンプ場には、長期滞在する方も多いことから、これらの方々のごみ処理についてキャンプ場設置者としての対応を図る必要があると考えている。他の自治体の事例を参考に、今後の管理運営を含めた対策を検討していきたい。

再質問　**(1)あおぞら団地完売後の忠類地域団地造成の考えについて伺う。**

(2)キャンピングカーによる長期滞在者のゴミの対応について伺う。

答　**(1)**今年度に入って全部で６区画売れており、今後の団地造成について検討していきたい。

(2)事業系の廃棄物としての処理を考えているが、その処理をするに当たって、いろいろな課題が残っており、詳細を詰めて、できるだけ早く実施したい。

ナウマン公園キャンプ場